

文京区補助金等チェックシート（実績検証用）

所属 保健衛生部健康増進係福祉保健政策推進担当

問合せ先 03 - 5803 - 1231

6年度調査

1 補助金の名称等

補 助 金 の 名 称	がん患者ウィッグ等購入費用助成									
根 拠 規 定 等	文京区がん患者ウィッグ購入等費用助成事業実施要綱									
創 設 年 月	令和	2	年	5	月	経過年数 〔自動計算〕	4年	終了予定年月		
見 直 し 年 月	令和	5	年	4	月	経過年数 〔自動計算〕	1年			
見 直 し の 内 容	補助対象に胸部補整具及びつけ眉毛等の購入費用を追加。補助金上限額を30,000円から100,000円に変更、申請1回当たり1点(つけ眉毛のみ複数個可)、申請回数2回までに変更。									
予 算 科 目	款	項		目		大事業		中事業		計画事業番号
	6 衛生費	1 保健衛生費		3 保健予防事業費		11 がん検診		9 がん対策関係費		112
補 助 金 の 種 別	☒ 奨励的補助 ☐ 施設運営補助 ☐ 扶助的補助 ☐ 投資的補助 ☐ 利子補給									

2 補助金の概要

補助目的	がん患者に対し、ウィッグ、胸部補整具、つけ眉毛その他の補整具の購入またはリース等費用の一部を助成することにより、がん患者の経済的負担を軽減するとともに、補整具等の使用により治療に伴う外見の変化が及ぼす心理的負担の軽減を図る。					
補助事業等の内容	対象者：がんと診断され現にその治療を行い、ウィッグ等を購入またはリースした日から1年以内の区民 定員：250人 助成金額：ウィッグ購入等費用(上限10万円)、申請1回当たり1点(つけ眉毛のみ複数個可)、1人2回まで					
補助対象経費の内容	がんと診断され治療を行い、抗がん剤治療等の副作用による脱毛や乳房の切除などにより、購入またはリースするウィッグ、胸部補整具、つけ眉毛等の費用					
補助事業者等	☒ 区民 ☐ 地域活動団体 ☐ NPO(特定非営利活動団体) ☐ 事業者 ☐ その他 [特定の相手方に補助している場合は具体的に記入]					
補助金の算出	☐ 定率 [補助率] ☐ 定額 [補助額]					
	☐ 補助単価 [補助単価 単位] ☒ その他					
	[その他の場合は具体的に記入]					
	助成対象経費の実支出額(100円未満切り捨て)又は10万円のうち、いずれか低い額。 [定額又は補助単価の場合は金額設定の考え方を具体的に記入] 東京都が実施する医療保健政策区市町村包括補助事業の対象事業要件に基づく。					
公募の状況	ホームページ、区報、区公式SNS、チラシ、ポスターにより周知する。					
実績報告書時における 使途の確認方法	☒ 領収書 ☐ 契約書 ☐ 決算書 ☐ 成果物 ☐ その他 []					
補助・単独の状況	☐ 区単独	負担割合	区 1/2	国	都 1/2	補助対象者
	☒ 補助(区上乗せ無し)	上乗せの内容・理由				
	☐ 補助(区上乗せ有)					

3 交付実績

(件、千円)

項目	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度(決算)	6年度(予算)
交付(見込み)件数	96	95	212	250
決算(予算)額	2,688	2,713	15,738	25,000
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	7,868	12,500
その他	0	0	0	0
一般財源	2,688	2,713	7,870	12,500
交付実績の特記事項				

4 補助金の交付の適否に関する基準 [○:適合、△:適合しているが課題あり、×:不適合、-:非該当]

項目	内 容	判定	判定の理由(△、×の場合のみ記載)
必要性 (公益性)	補助事業等が、社会情勢や区民ニーズに適合しているか	○	
	基本構想、総合戦略、個別計画等の区の政策に適合しているか	○	
	区と区民等の役割分担の中で、区が補助すべき事業であるか	○	
	実施しなかった場合に大きなマイナスの影響が生じるか	○	
公平性	補助要件に該当する補助事業者等であれば、誰でも補助金の申請をする機会が確保されているか	○	
	交付先は適正な手続きによって決定されているか	○	
効率性 (有効性)	補助金の交付以外の代替策はないか	○	
	補助金の交付による効果が認められるか	○	
	補助金額に見合う具体的効果が認められるか	○	
	事業実施の効果が広く区民に還元されているか	○	
適正性 (適格性) (妥当性) ※個人等の 補助金につ いては不要	法令等に抵触していないか	-	
	団体等の活動内容が補助目的と合致しているか	-	
	団体等の会計処理や補助金の使途が適正か	-	

5 効果、課題及び今後の方向性

効果	アピアランスケアに係る助成をすることで、がん患者の経済的・心理的負担を軽減し、地域生活を送る支援に寄与することができた。
課題	事業を知らなかったと言われることが多く、必要な対象者に周知が十分に届いていないことが考えられる。
今後の方向性	助成対象の内容拡充を広くがん患者に知ってもらうため、より効果的な周知方法を検討する。